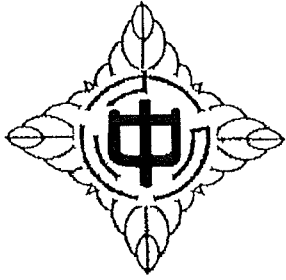
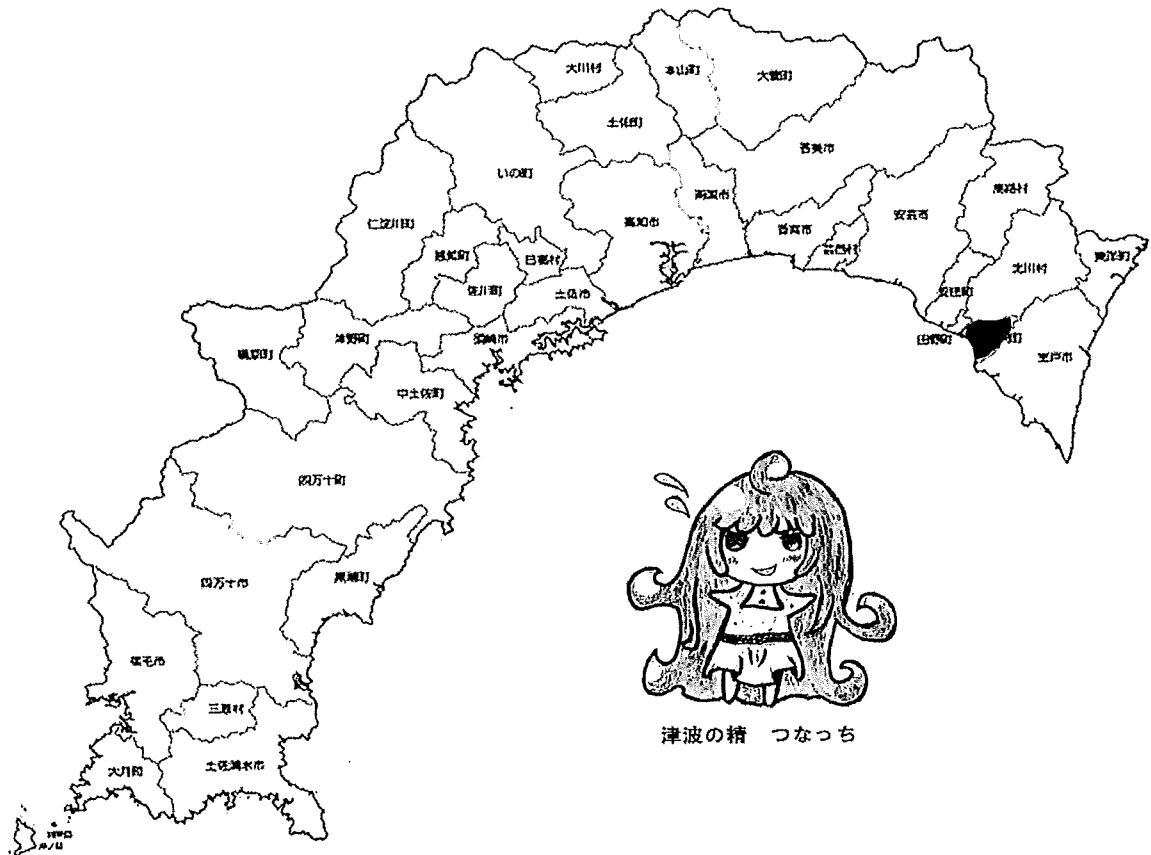


令和5年度

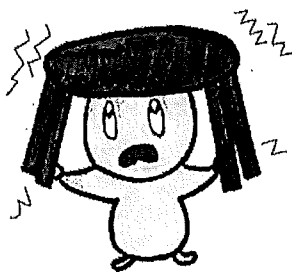


学校安全計画

(教育計画Ⅳ 別冊)



津波の精 つなっち



もぐりん



防災呼びかけダルマ



Bo うさぎ

奈半利町立奈半利中学校

目 次

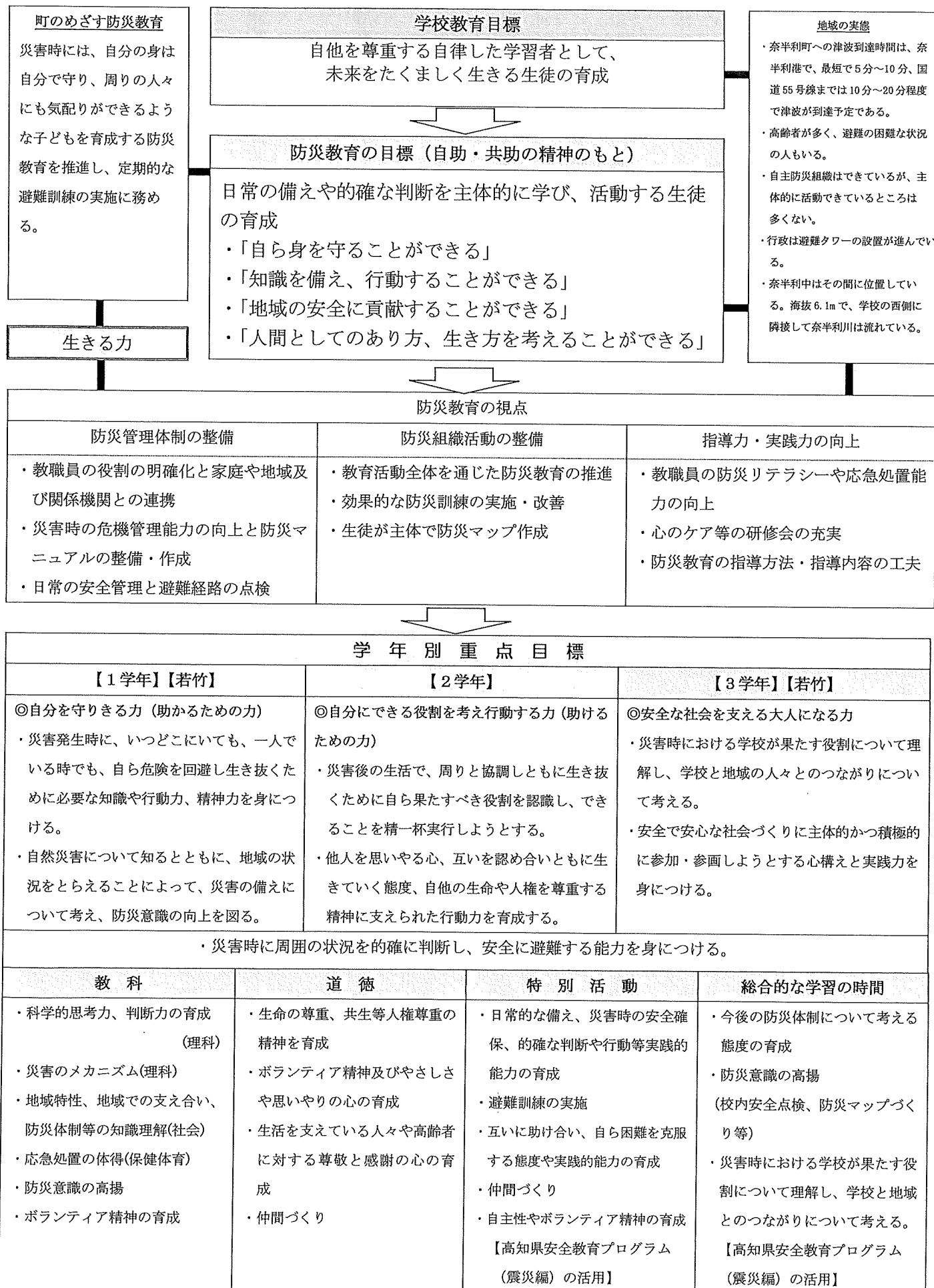
1	学校安全全体計画	1
2	防災計画	
(1)	防災教育全体計画	2
(2)	防災教育年間指導計画	3
(3)	学校防災マニュアル	
【震災編】	1 作成の目的	6
	2 学校の立地条件及び想定される災害	6
	3 事前の危機管理（備える）	7
	(1) 組織体制と参集	7
	(2) 連絡体制	9
	(3) 防災関係機関連絡先	10
	(4) 安全点検	11
	(5) 避難訓練	11
	4 発生時の危機管理（命を守る）	
	(1) 初期対応	12
	(2) 二次対応 ○愛光園への避難経路	13
	○屋上への避難経路	14
	○引き渡しと保護	14
	5 様々な場合に応じたフローチャート	
	(1) 在校中	16
	(2) 校外活動中	17
	(3) 登下校中	18
	6 事後の危機管理（とりもどす）	
	(1) 生徒の心のケアについて	19
	(2) 学校再開に向けた取組	21
【火災編】	1 火災発生時の対応	22
	2 管理責任者	22
【その他】	1 落雷	23
	2 竜巻	24
	3 弾道ミサイル	27
	4 学校への犯罪予告・テロ	28
	5 インターネット上の犯罪被害	28
3	危機管理体制	
(1)	登下校時における事故等の対応	29
(2)	不審者侵入時	30
(3)	感染症発生時	31
4	学校保健計画	
(1)	学校保健年間計画	32
(2)	保健室経営	33
(3)	校内救急体制	35
(4)	熱中症の応急処置	39
(5)	性教育全体計画	40

國志州牧表

[illegible]

2 防災計画

(1) 奈半利中学校防災教育全体計画



防災教育年間指導計画(1年生)

(2)防災教育年間指導計画(1年生)

[illegible]

防災教育 年間指導計画(2年生)

防災教育 年間指導計画(2年生)

教科・領域		4月	5月	6月	7-8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別活動	学校行事	第1回避難訓練 (授業中:地震・津波を想定)		第2回避難訓練 (部活中:地震・津波を想定)	緊急救命講習会	第3回避難訓練 (屋上:地震・津波を想定)		第4回避難訓練 (火事を想定)	焼き出し訓練	第5回避難訓練 (休み時間:地震・津波を想定)		
	学級活動	防災意識調査アンケート(1回目)	〇「警報」注意報」の違いって？ ～情報正しい理解と活用～(告知防災教育プログラム)(防災に関する情報入手、情報を正しく理解することの重要性等)			〇「備えて安心」～家族の安全対策～(「防災」知識を深め、防災グッズの準備等)	〇防災コミュニケーション「ジョー」のちひるめるほろさい」		〇「自分ができること」で何だろうか？」		〇ナガの発生状況とその防止(被災後のナガについて考える) 防災意識調査アンケート(2回目)	
	道徳			命、今生きていること (出典:彩の国の道徳心の絆 埼玉県教育委員会) 3ー(1)生命尊重			強い願いさ (出典:中学生の道徳あかつき) 2ー(2)あたたかい人間愛	命の重さ (出典:中学生の道徳あかつき) 3ー(2)かけがいのない命		震災の中で (出典:明日をひらく 東京書籍) 4ー(5)勤労奉仕		
総合的な学習の時間		自分たちが学習したことを広げよう。										
教科	4											
	国語											
	社会			変動する大地と安定した大地(太平洋のプレート)を学ぶ)	自然のむたらす災害を克服する(自然災害と防災を学ぶ)							
	数学											
	理科					心臓の仕組みについて						
	音楽	心の歌 ・歌をくたさい ・夏の思い出				歌詞と旋律線の関わり ・明日という日が ・花は咲く	歌詞と旋律線の関わり ・明日という日が ・花は咲く	歌詞と旋律線の関わり ・明日という日が ・花は咲く				
	美術				デザイン ・防災の啓発ポスター制作	デザイン ・防災の啓発ポスター制作						
	保健体育						環境の変化と対応能力	水の利用と確保	ごみの処理	環境の汚染と保全		
	技術											
	家庭		自分の住まいを点検し、災害に備えた安全対策を考える									
	外国語						Unit7"Universal Design					

防災教育 年間指導計画(3年生)

防災教育 年間指導計画(3年生)

教科・領域		4月	5月	6月	7-8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別活動	学校行事	第1回避難訓練 (授業中:地震・津波を想定)		第2回避難訓練 (授業中:地震・津波を想定)	緊急救命講習会	第3回避難訓練 (屋上:地震・津波を想定)		第4回避難訓練 (火事を想定)	炊き出し訓練	第5回避難訓練 (休み時間:地震・津波を想定)		
	学級活動	防災意識調査アンケート (1回目)		〇「災害後の暮らし、あなただけでできることは？」 ①『防災安全教育プログラム』(災害後の地域や被災者を支える人々の働きを理解、災害ボランティア活動等)			〇「使えますか？防災倉庫の中にあるもの」 ①『防災安全教育プログラム』(防災倉庫の中身を知り使い方の確認をする、地域の防災訓練等への参加等)	〇「自分だったらどうする？」 ①『まもるいのちひろめるぼうさい』			防災意識調査アンケート (2回目) 〇家族との約束事～家族防災会議を振り返る～ ①『防災安全教育プログラム』	
	道徳	語り継がれる教訓(出典:東の國の道徳 心の絆 埼玉県教育委員会) 3-(1)かけがえのない生命		一枚の葉(出典:自分のばす あかつき) 3-(1)自然への畏敬		どうこそ「やねせん」へ(出典:自分のばす あかつき) 4-(8)郷土を愛する心	天使の涙(出典:彩の國の道徳 心の絆 埼玉県教育委員会) 2-(6)感謝		原稿用紙(出典:自分のばす あかつき) 4-(3)つながりあう社会	心がひとつに(出典:自分のばす あかつき) 4-(1)集団生活の向上	ありがとう(出典:自分のばす あかつき) 2-(6)感謝の心になえる	
奈良利町の防災を学び、自分たちにできることを考え、実践できる人になろう。												
総合的な学習の時間												
5	国語											
	社会											
	数学											
	理科											
	音楽			花の宿【心の歌:鑑賞】	合唱の名曲 人を感動させる合唱曲【鑑賞】	聖かな声の響きと感動 ・明日という日が ・花は咲く	聖かな声の響きと感動 ・明日という日が ・花は咲く	聖かな声の響きと感動 ・明日という日が ・花は咲く				
	美術			デザイン ・防災の啓発ポスター制作	デザイン ・防災の啓発ポスター制作	デザイン ・防災の啓発ポスター制作						
	保健体育											
	技術											
	家庭											
	外国語				Unit4 To Our Future Generations	Let's Read 1 "A Mother's Lullaby" (金の大切な子について学ぶ)						

(3) 学校防災マニュアル【震災編】

1 作成の目的

災害発生時に生徒等の命を守るために教職員が行うべき必要な対応等をあらかじめ明確化し、全教職員が共通理解を図るとともに、いざという時に迅速かつ的確に行動できるようにするための行動指針とする。

2 学校の立地条件及び想定される災害

(1) 立地条件

海岸からの距離約600m、標高6.1mの地点に位置している。

(2) 地震発生時に想定される災害

- 平成24年6月26日高知県が発表した想定
校舎が約21分で30cmの津波浸水、最大12.6m津波が地震発生後50分で到達
- 平成24年12月10日高知県が発表した想定
校舎付近が40～60分で30cmの津波浸水、津波浸水最大深2～3m

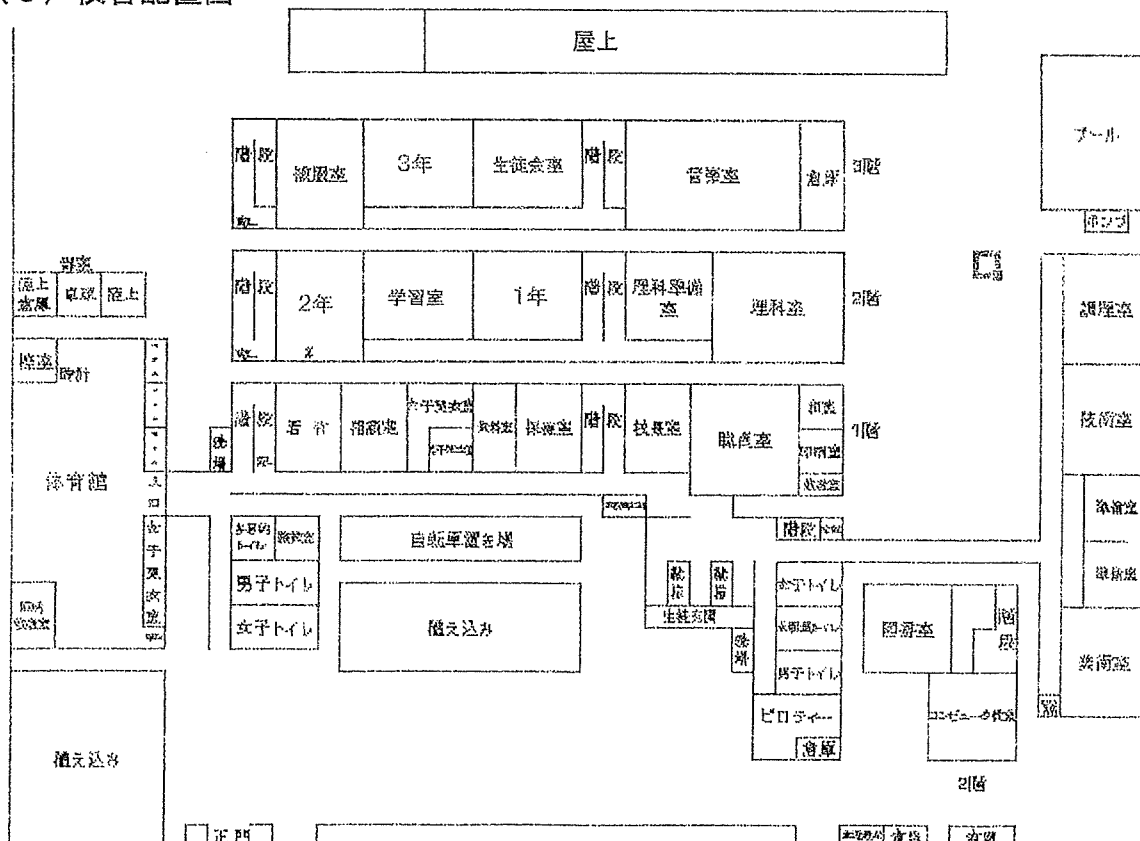
(3) 地震発生時の避難場所(令和2年3月現在)

- 愛光園…海拔33.6m 奈半利中学校から約1.5km 徒歩約20分
- 校舎屋上(海拔6.1m 地上11m)…国道の状況等で愛光園に避難できない場合及び怪我、疾患等で愛光園へ避難できない生徒

(4) 地震発生時に学校内で危険が予測される場所と対応方法

- 出入り口(ひずみが生じ、開かなくなる)→バールを用意済(職員室教頭先生の机横)
- 校舎内の壁(表面の崩落)→安全な経路を見ながら避難
- 階段(損壊により避難ができなくなる)→安全な方で避難、将来的に外階段の設置

(5) 校舎配置図



3 事前の危機管理（備える）

（１）組織体制と参集

指揮命令者の順

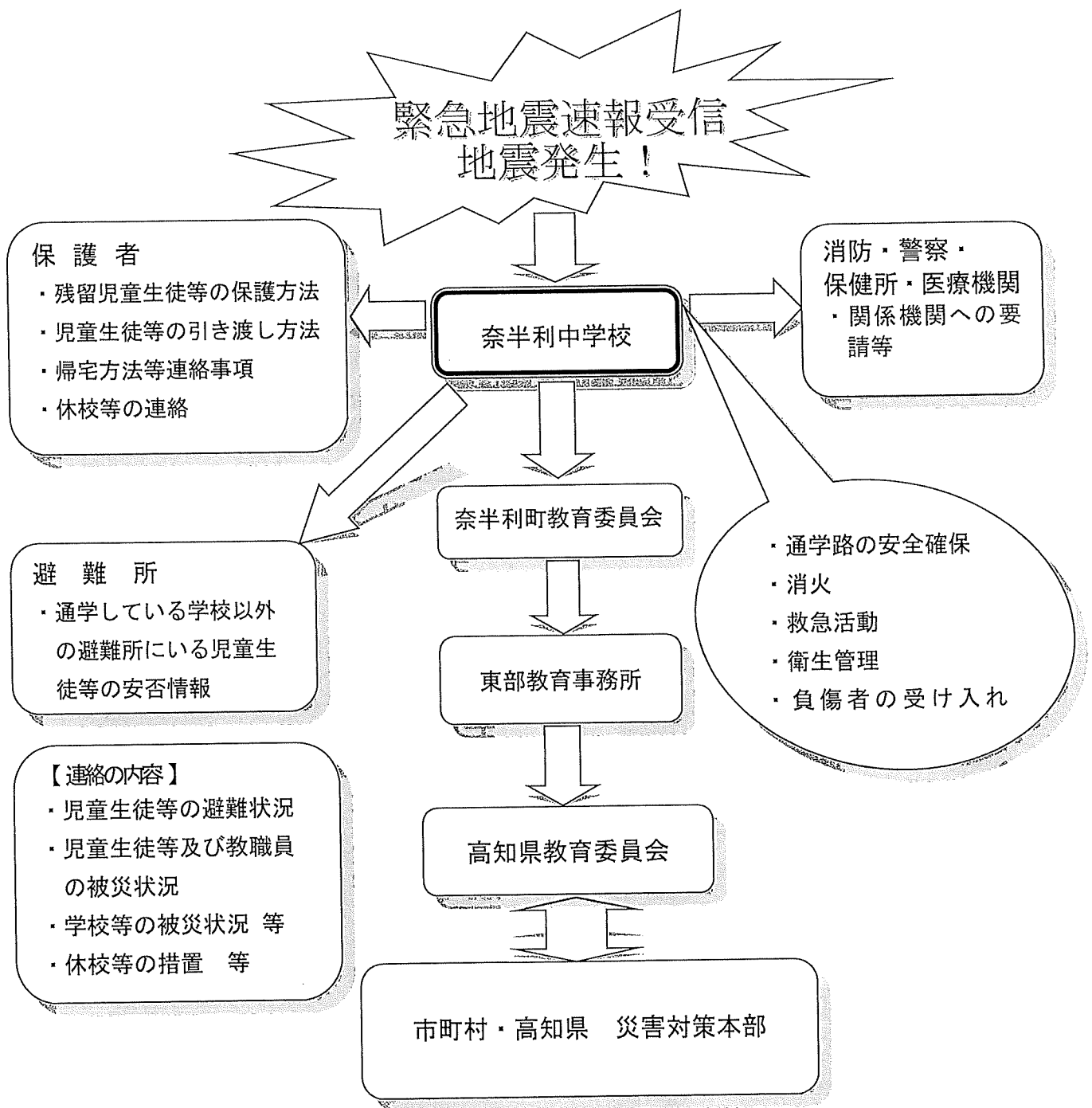
- ① 校長：小松 英也
- ② 教頭：大野 高範
- ③ 3年担任：江角 祐輔
- ④ 2年担任：高橋 一成 吉村 基
- ⑤ 1年担任：松本 晶子
- ⑥ 教務主任：清岡 直樹

組織体制

班長・・・◎

災害対策本部	本部長 小松英也校長 副部長 大野高範教頭	・校内放送、ハンドマイク等による連絡や指示 ・応急対応の決定（被害状況を把握し、避難の実施方法を決定） ・避難経路の安全性を確認後、避難の指示 ・各班との連絡調整 ・被害の情報収集 ・教育委員会等の関係機関への連絡
避難誘導班	地震発生時の授業者	・避難誘導（避難の実施方法、避難経路の指示） ・生徒対応（安全確保、的確な指示、不安払拭等） ・安否確認（負傷者の有無・避難誘導等）
巡視・消火	授業者以外	・校舎内巡視（取り残されている生徒がいないか）、避難誘導（出入り口等）、初期消火等
児童生徒等 対応班	1年学級担任 松本晶子教諭 2年学級担任 高橋一成教諭 3年学級担任◎ 江角祐輔教諭	・生徒対応（安全確保、点呼、的確な指示、不安払拭等） ・安否確認（被害状況の点検・安全確認） ・救護（負傷者の状況確認、負傷者の搬出等） ・保護者対応（保護者等への連絡対応、生徒の引き渡し等）
救急医療	久保藍子養護教諭◎ 島田紀香講師	・応急手当、救急薬品の整備等
搬出・連絡	尾城光俊主任◎ 太田久美用務員	・重要書類搬出、保護者等からの連絡対応

(2) 連絡体制



(3) 防災関係機関連絡先一覧

高知県教育委員会

連絡先	電話番号	F A X 番号	備考
教育政策課	088-821-4902	088-821-4558	
教職員・福利課	088-821-4905	088-821-4725	
学校安全対策課	088-821-4534	088-821-4546	
幼保支援課	088-821-4882	088-821-4774	
小中学校課	088-821-4735	088-821-4926	
高等学校課	088-821-4851	088-821-4547	
特別支援教育課	088-821-4741	088-821-4547	
生涯学習課	088-821-4745	088-821-4505	
スポーツ健康教育課	088-821-4751	088-821-4849	
人権教育課	088-821-4765	088-821-4559	
東部教育事務所	0887-34-3591	0887-34-3592	

(4) 安全点検

安全点検の種類	時期・方法等	対象	法的根拠等
定期の安全点検	毎学期1回以上 計画的に、また教職員 全員が組織的に実施	児童生徒等が使用する 施設・設備及び防火、 防災、防犯に関する設 備などについて	毎学期1回以上、幼 児、児童、生徒又は学 生が通常使用する施設 及び設備の異常の有無 について系統的に行わ れなければならない (規則28条第1項)
	毎月1回 計画的に、また教職員 全員が組織的に実施	児童生徒等が多く使用 すると思われる校地、 運動場、教室、特別教 室、廊下、昇降口、ベ ランダ、階段、トイ レ、手洗い場、給食 室、屋上など	明確な規定はないが、 各学校の実情に応じ て、上記(規則28条第 1項)に準じて行われ る例が多い
臨時の安全点検	必要があるとき ・運動会や体育祭、学芸 会や文化祭、展覧会な どの学校行事の前後 ・暴風雨、地震、近隣での 火災などの災害時 ・近隣で危害のおそれ ある犯罪(侵入や放火 など)の発生時 など	必要に応じて点検項目 を設定	必要があるときは、臨 時に、安全点検を行う (規則28条第2項)
日常の安全点検	毎授業日ごと	児童生徒等が最も多く 活動を行うと思われる 箇所について	設備等について日常的 な点検を行い、環境の 安全の確保を図らなけ ればならない(規則29 条)

【出典：『「生きる力」を育む学校での安全教育」文部科学省】

(5) 避難訓練

4月12日(水)	起震車体験	3年に1回起震車体験
4月19日(水)	第1回避難訓練(愛光園への避難)	
6月19日(月)	第2回避難訓練(部活動中)	
9月25日(月)	第3回避難訓練(屋上への避難)	
11月9日(水)	第4回避難訓練(火事)	3年に1回煙体験、消火活動体験は毎年
12月16日(土)	炊き出し訓練	
1月11日(木)	第5回避難訓練(休み時間中)	日赤応急手当講習

*過去の避難訓練の結果

24年度…地震発生から17分(約2分の揺れを含む)で愛光園まで全校生徒が避難完了

JA前：最終7分 愛光園入り口：最終10分40秒

25年度…地震発生から17分(約2分の揺れを含む)で愛光園まで全校生徒が避難完了

26年度…避難開始後から17分30秒で愛光園まで全校生徒が避難完了(幼児を助けながら)

27年度…避難開始後から18分27秒で愛光園まで全校生徒が避難完了(怪我人役、高齢者役、
幼児を助けながら)

28年度…地震発生から17分(約2分の揺れを含む)で愛光園まで全校生徒が避難完了

29～31年度…地震発生から15分(約2分の揺れを含む)で愛光園まで全校生徒が避難完了

R2年度…地震発生から14分半(約2分の揺れを含む)で愛光園まで全校生徒が避難完了

*初期対応の訓練(揺れへの対応)は、適宜、日常の様々な場面で行う

4 発生時の危機管理（命を守る）

（１） 初期対応

○在校中

「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけて身を寄せる

場 所		教職員の指示	生徒の行動
普通教室		「机の下にもぐりなさい」「姿勢を低くして、机の脚をしっかりとつかみなさい」（揺れが治まったら）「ヘルメットをとりなさい」	・机の下にもぐり、机の脚をしっかりとつかむ ・揺れが治まったら、コンテナのヘルメットをとってかぶる
特別教室	理科室	・「火を消しなさい」「薬品や熱湯から離れなさい」 ・「ピアノから離れなさい」	・アルコールランプ、コンロ等の火を消す。薬品、熱湯から離れる ・ピアノから離れる
	調理室		
	音楽室	・「棚から離れなさい」 ・*机にもぐれる場合：「机の下にもぐりなさい」「姿勢を低くして、机の脚をしっかりとつかみなさい」	・棚から離れる ・*机の下にもぐれる場合：机の下にもぐり、机の脚をしっかりとつかむ
	美術室		
	技術室		
	図書室		
	PC室		
体育館		「窓ガラス・電球の破損に注意しなさい」	・天井や窓からの落下物に注意して頭を守る
校 庭		「照明灯、奈半利線架橋の倒壊に注意して中央に集まりなさい」	・照明灯、奈半利線架橋の倒壊に注意して中央に集まる
プール		「プールの端に移動して、ふちをしっかりとつかみなさい」	・プールの端に移動して、ふちをしっかりとつかむ
廊下・階段		「できるだけガラスから離れ、しゃがみなさい」	・しゃがむ ・窓ガラスから離れる ・近くの教室へ入る
トイレ		（構造上安全性が高い）	・窓ガラスから離れてしゃがむ
校外での活動中		・状況の把握と的確な指示 ・倒壊物、落下物への注意 ・地震発生時を想定して計画する	・姿勢を低くし、頭部および上半身を守る ・倒壊、落下に注意する

○在校中で生徒が教職員と離れている場合

状況	生徒の行動	留意点
始業前・休み時間 部活動中等	・各場所に応じた身を守る行動をとる	・分散して校舎内を巡回し、生徒の安全を確認する ・より安全な場所に誘導する ・自分で自分の身を守る行動ができるよう考えさせ訓練をしておく

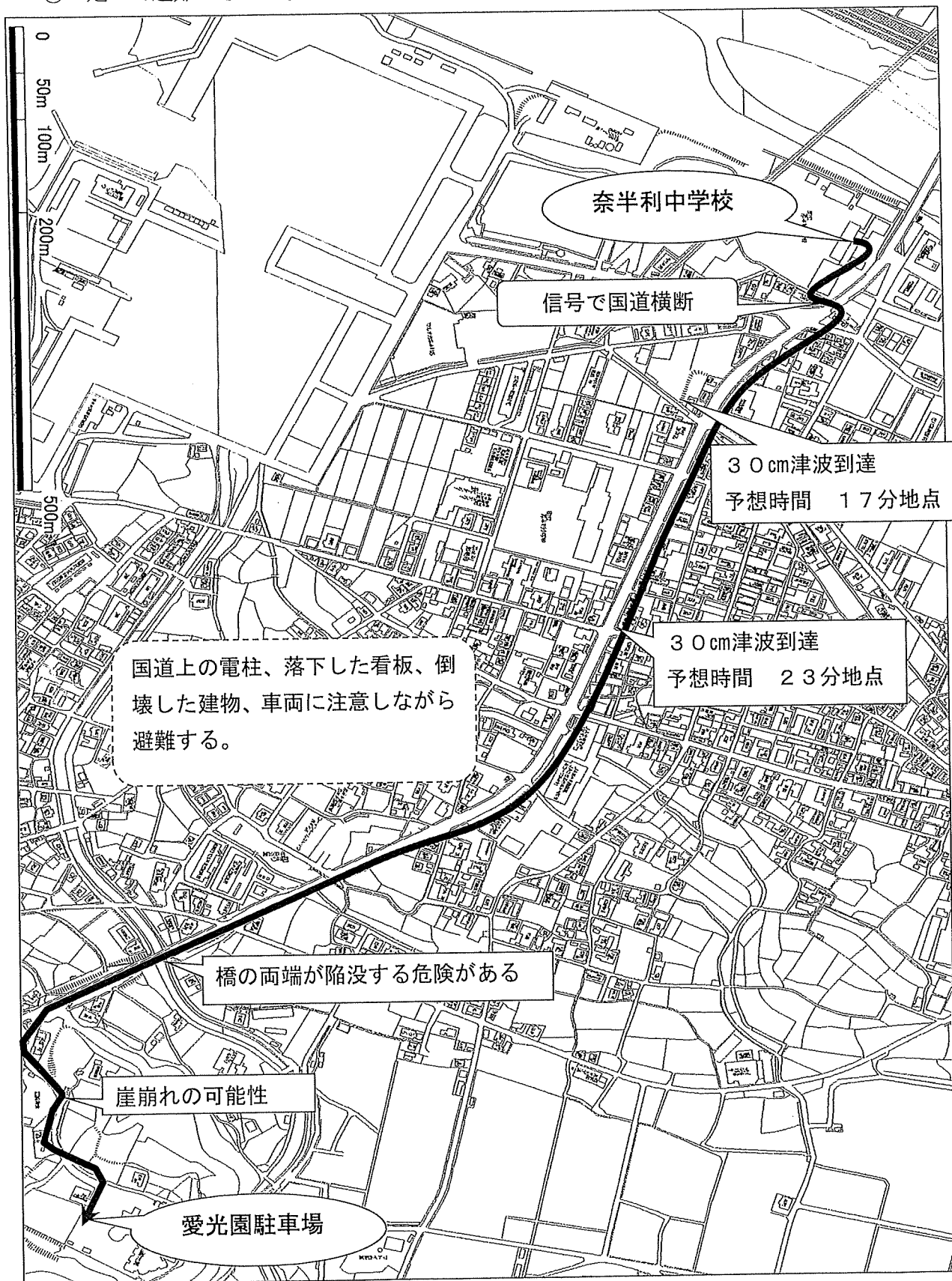
○登下校中

状況	生徒の行動	留意点
徒歩	ブロック塀、自動販売機、電柱から離れて、姿勢を低くして身を守る	・登下校中の震災を想定して、自分で自分の身を守る行動ができるよう、考え、訓練をしておく（通学路の防災マップの作成、避難訓練等）
自転車	すぐに停車して自転車から降りる。ブロック塀、自動販売機、電柱から離れて、姿勢を低くして身を守る	

(2) 二次対応

○愛光園への避難経路

- ① 国道を使用した避難が適切と判断した場合、愛光園へ避難する。
- ② 走って避難できない状況の生徒（怪我、疾患等）は、授業者が指示し屋上へ避難する。

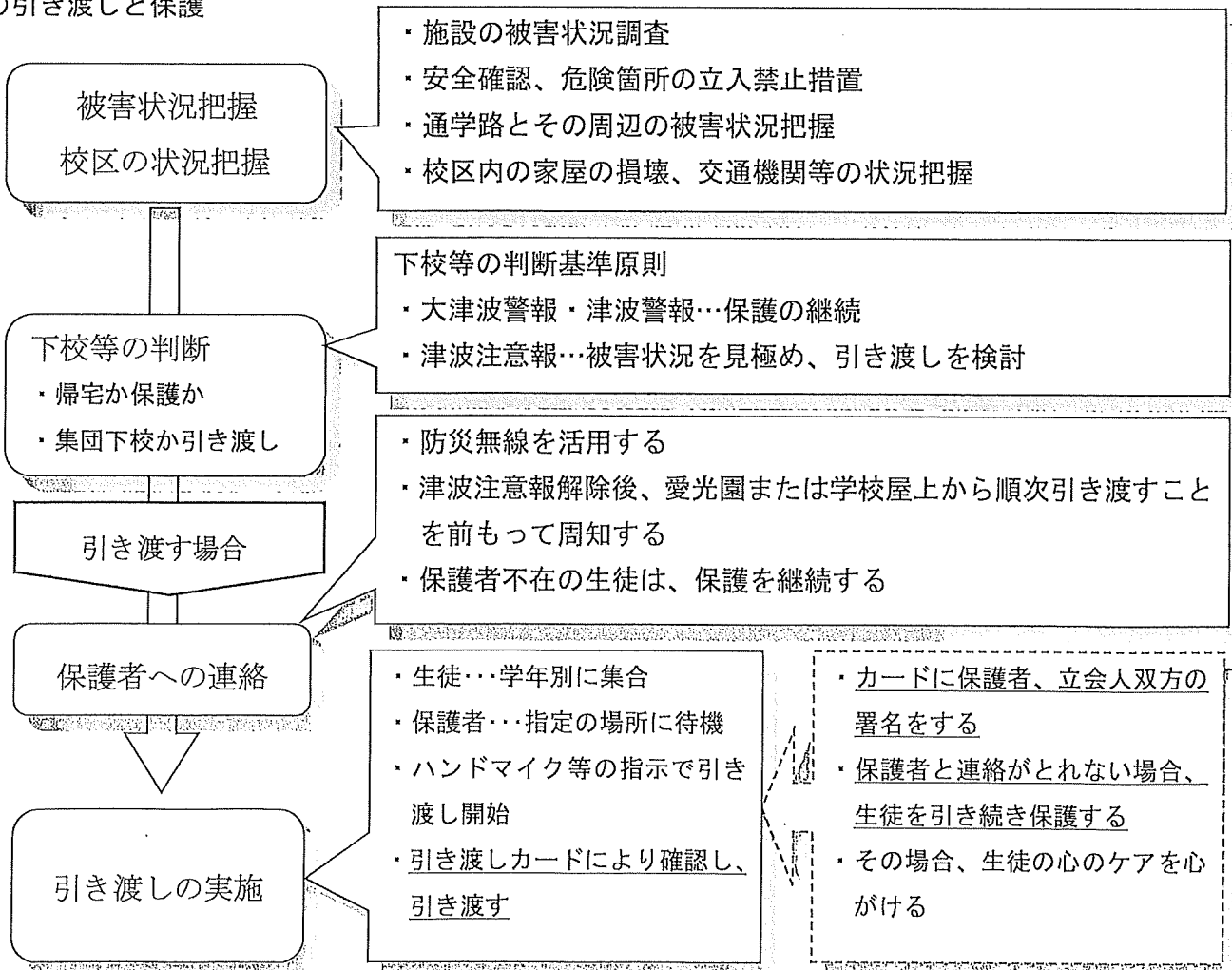


○屋上への避難経路

- ① 一次避難：安全確認後、最寄りの階段から、まず3階へ避難する。
- ② 二次避難：3階以上に津波到達の可能性があると判断した場合、学校長の指示により屋上へ避難する。



○引き渡しと保護



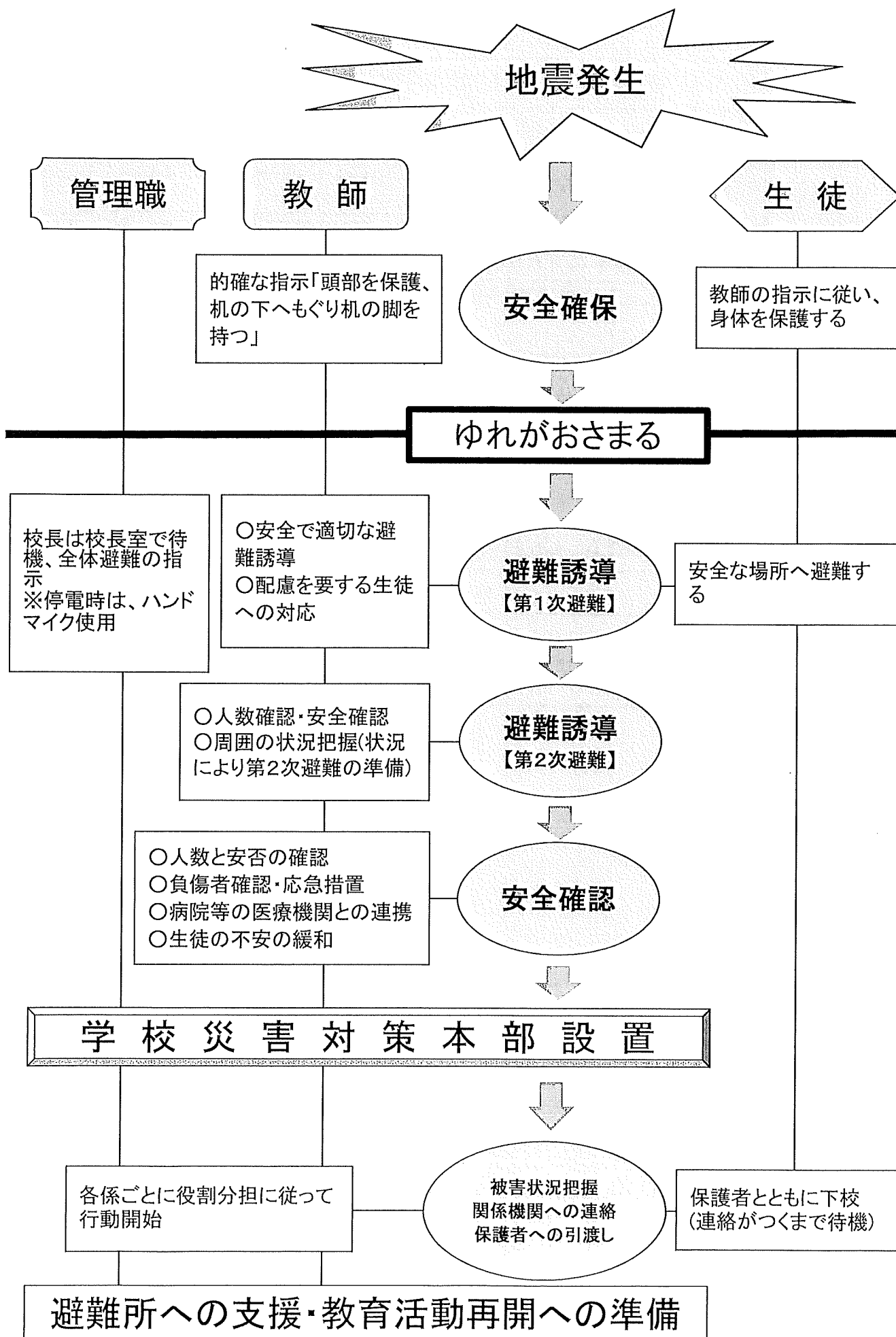
【引き渡しカード】

災 害 時 引 き 渡 し カ ー ド					奈半利中学校	
年	ふりがな		性別	男 ・ 女		
	生徒名					
現住所	〒					
自宅電話番号						
災害時引き取り者（優先順位をつけてできるだけ多く記入してください）						
優先順位	氏名	連絡先電話番号	勤務先・住所		生徒との関係	
1						
2						
3						
4						

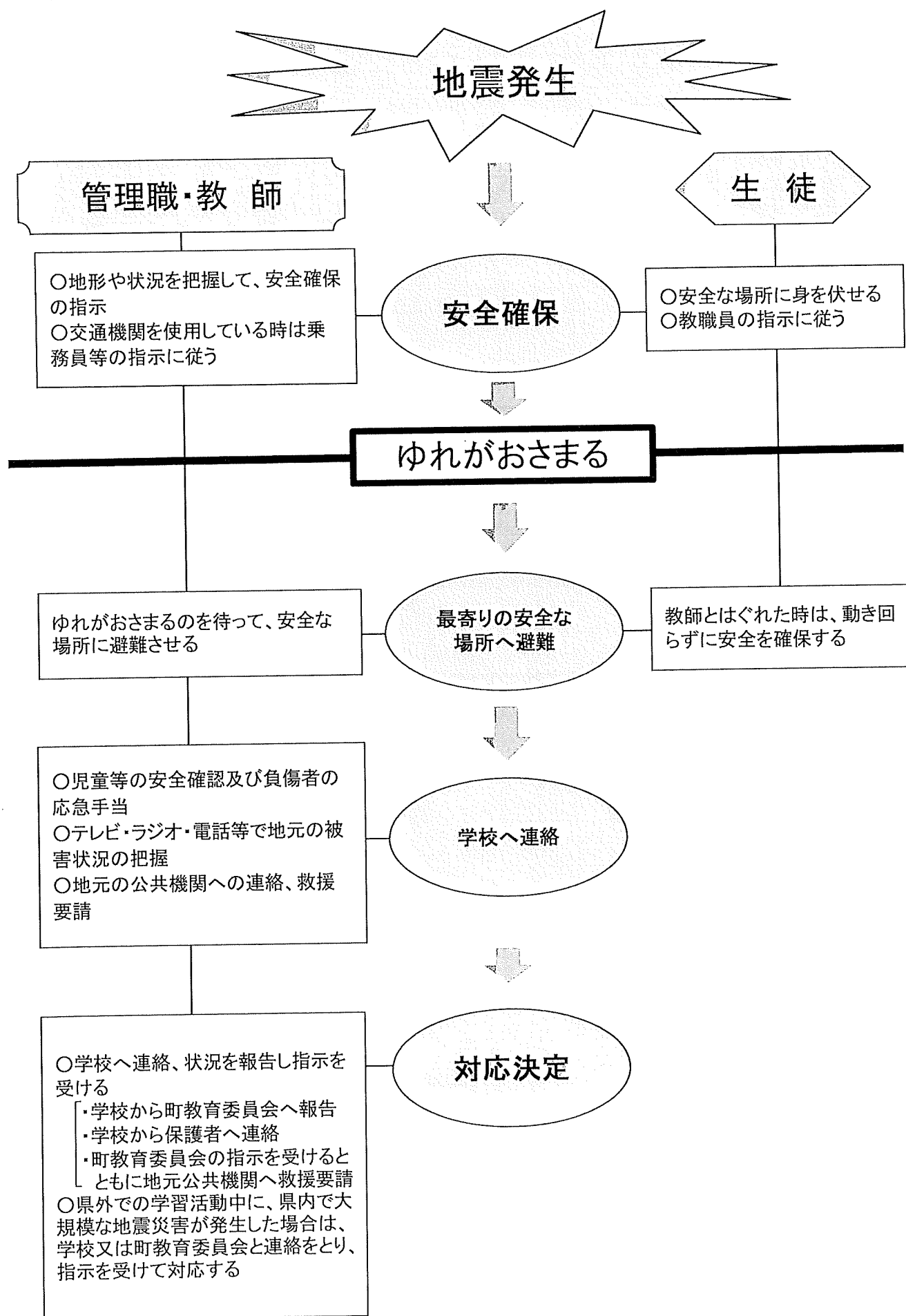
引き渡しの記録（記入の必要はありません）				
立会人名		日 時	月	日 時 分
引き渡し場所		引き取り者名（本人が記入）		
引き渡し後の居場所		電話番号		

5 様々な場合に応じたフローチャート

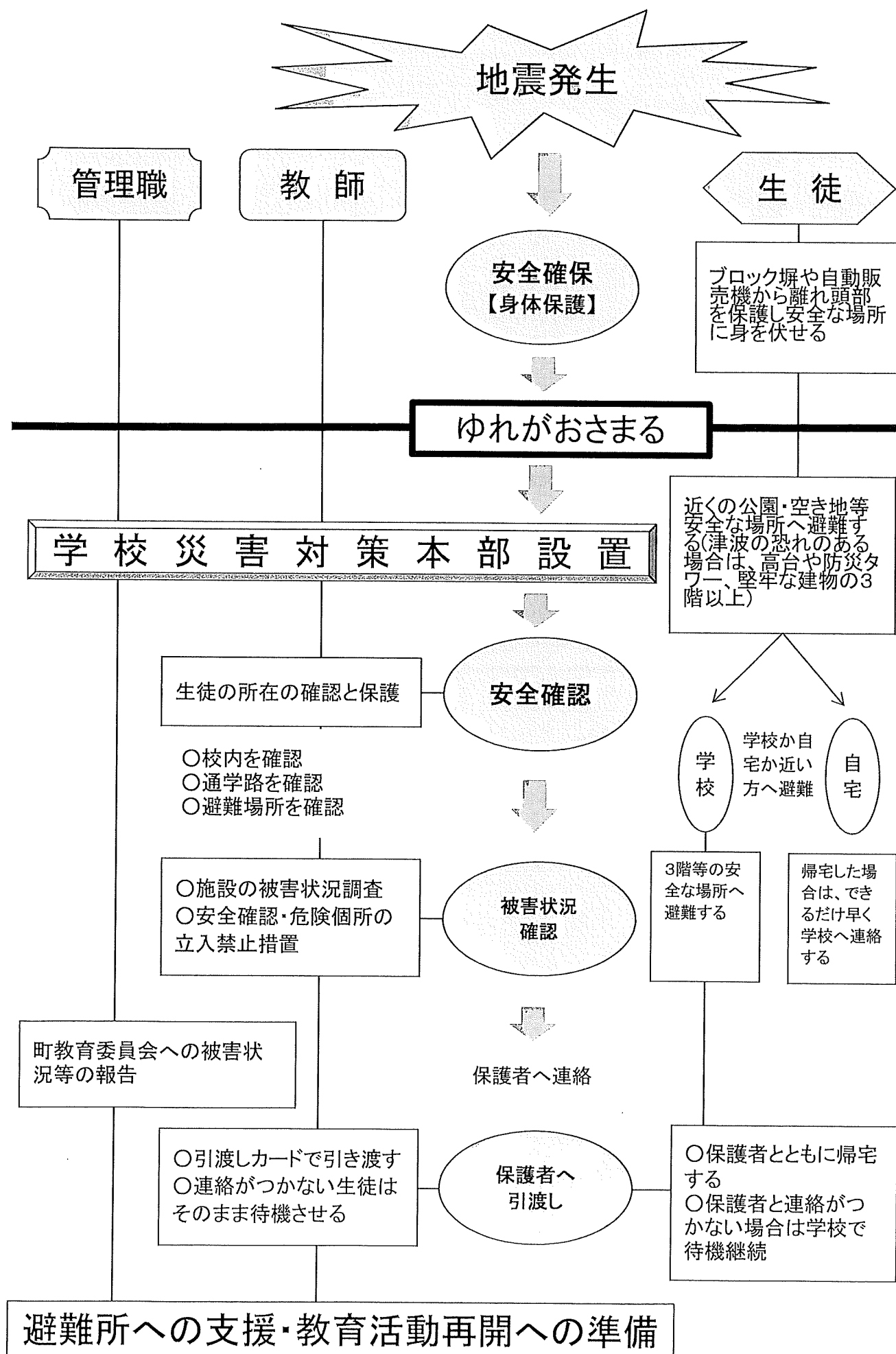
(1) 在校中



(2) 校外活動中

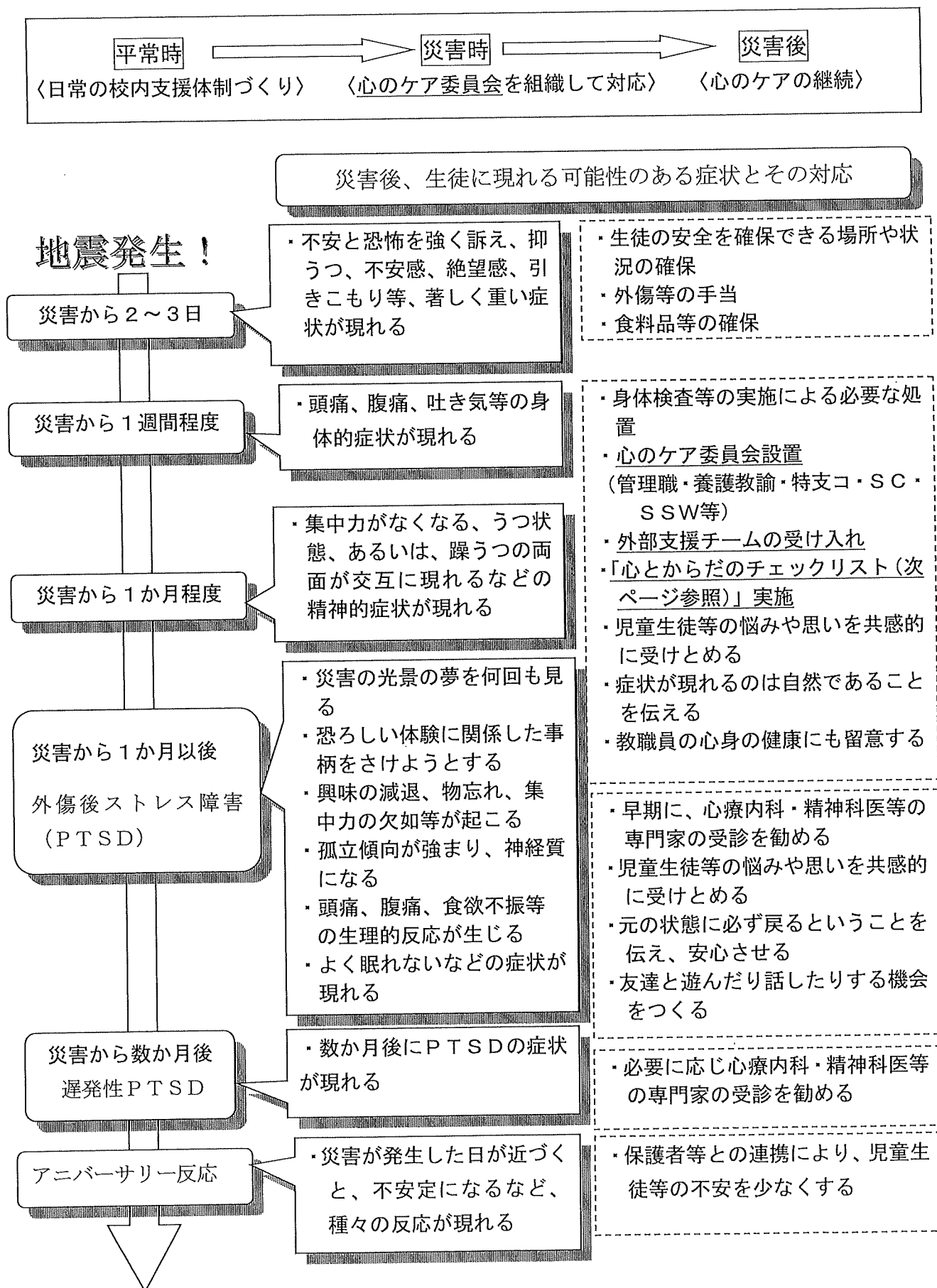


(3) 登下校中



6 事後の危機管理（とりもどす）

（1）生徒の心のケアについて



「心とからだのチェックリスト」

私たちの心とからだは、とても悲しい出来事の後では、いろいろな変化をすることがあります。皆さんだけではなく、保護者の方や他の大人の方々も同じことで、とても自然なことです。でもこれをそのままにしておくのは、よくありません。

そこで、「心とからだのチェックリスト」を使って、この1週間の間に変わったことがあったかみてみましょう。

○回答の仕方：以下の間に対して、あなたにあってはまる番号に○をつけて回答してください。

- ①全くあてはまらない

②あまりあてはまらない

③ややあてはまる

④よくあてはまる

1	2	3	4
全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	よくあてはまる

1. 心配でイライラして落ち着かない

2. 気持ちがむしゃくしゃしている

3. 時々、ボーっとしてしまう

4. すぐかっとするようになった

5. 誰かに怒りをぶつけない気持ちが強くなった

6. 眠れなかったり、途中で目が覚めたりする

7. 身体がだるく感じる

8. 腹痛や頭痛がすることが多い

9. ちょっととした音にびくくりする

10. 胸がドキドキしたり、苦しくなったりする
- 1

2

3

4

1

2

3

4

1

2

3

4

1

2

3

4

1

2

3

4

1	2	3	4
全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	よくあてはまる

11. 悲しい気分になる

12. そのことの夢やこわい夢を見る

13. 不意にこわいことを思い出す

14. またあんなことが起こりそうで心配だ

15. 楽しいことが楽しく思えない

16. 勉強に集中できない

17. 根気がない

18. 時々、自分を傷つけたくなることがある

19. 希望がもてない

20. 自分の居場所がないように感じる

21. 本当の自分を理解されていないように感じる

22. 私を認めてくれる人はいないように思う

23. どんなにがんばっても意味がないと思う

24. 悩みを話せる友人がいない
- 1

2

3

4

1

2

3

4

1

2

3

4

1

2

3

4

1

2

3

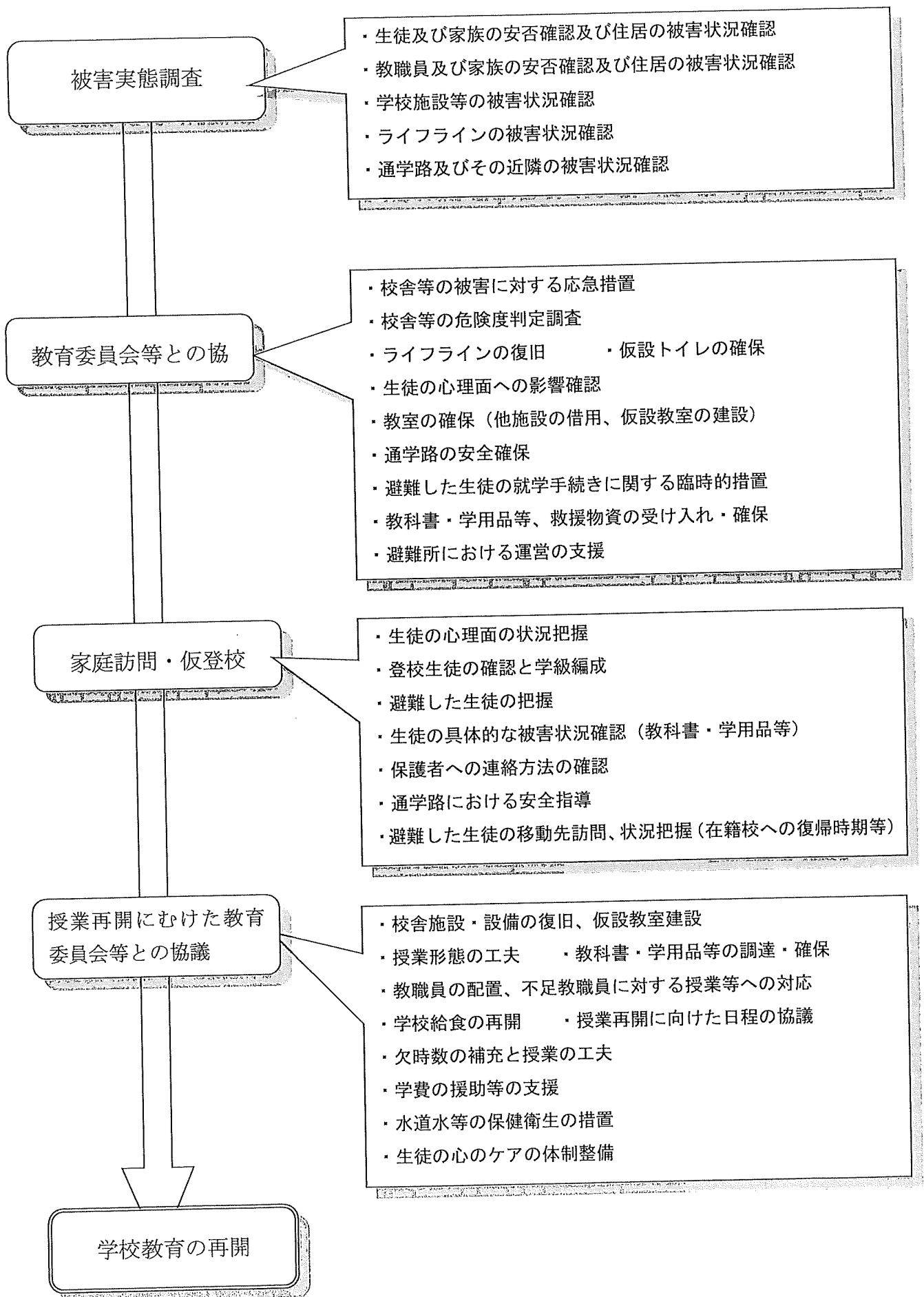
4

*今の気持ちを具体的に書いてみましょう。絵でもいいですよ。

☆相談したいことがあったら、先生方に相談するようにしましょう。

(2) 学校再開に向けた取組

地震発生！



【火災編】

1 火災発生時の対応

- (1) 出火発見者は、ただちに火場所を職員室に連絡し、火災報知機のボタンを押す。また、管理職は消防署へ通報する。
- (2) 生徒は、放送などの指示に従って行動し、授業中は担任の先生の指示に従って避難する。
- (3) 避難するときは、窓・戸を閉める。ガス等の元栓を止めて、所持品を持たず、あわてずに速やかに行動する。
- (4) 避難時には、階段・障害物に注意し、煙が充満している場合はハンカチ等で口鼻を覆い、身を低くして壁に沿って避難する。職員は、最後に生徒の有無を確認して避難する。
- (5) 避難場所に集合整列して、授業担当者・代表委員は点呼をとり、学校長へ報告する。
災害時、本部を設置し、消防署・警察などへの対応連絡を行う。さらに生徒への対応を協議し指示する。

2 管理責任者

1 階	職員室 和室	教頭	校長室	校長	印刷室	事務職員
	放送室	清岡	階段下倉庫	体育主任	保健室	養護教諭
	資料室	事務職員	男子更衣室	校長	女子更衣室	教頭
	若竹教室	若竹担任	相談室	養護教諭	生徒玄関	教頭
	東トイレ	養護教諭	東階段	1年学級担任	西階段	音楽科主任
2 階	理科室 準備室	理科主任	1年教室	1年学級担任	学習室	若竹担任
	2年教室	2年学級担任				
3 階	音楽室	音楽科主任	被服室	家庭科主任	生徒会室	生徒会担当
	3年教室	3年学級担任				
新館	西トイレ	用務員	新館倉庫	用務員	P C 教室	技術科担当
	図書室	図書担当				
技術棟	調理室	家庭科担当	技術室 準備室	技術科担当	美術室 準備室	美術科担当
体育館 周辺	体育館	体育主任	体育館 南部室	各顧問		
プール 周辺	プール	体育主任	野球部室 倉庫	陸上部顧問 野球部顧問		

【その他】

1 落雷

備え (情報収集)

- テレビやラジオ、インターネット等で雷注意報の気象情報を入手する。
- 積乱雲は、急に発達することがあるため、屋外での活動前だけでなく、活動中も随時空の様子に注意し、(レーダー・ナウキャスト等で) 気象情報を入手して最新の状況把握に努める。
- 屋外で活動する際は、朝から天気予報に注意する。特に『大気の状態が不安定』『急な雨に注意』『雷を伴う』といったキーワードに注目する。

【落雷の予兆ポイント】

- 雷注意報の発表がある。
- 背の高い入道雲が発生する。近くに差し迫ってくると、日射しを通さない黒い雲として見える。
- 雷鳴の聞こえる範囲はせいぜい14km以内であり、この範囲はどこでも落雷の可能生がある。
- 低く唸るような雷鳴はやや遠くの雷であり、甲高いのは近くの雷である。
- 大粒の雨や雹(ひょう)が降り出す。
- 急に冷たい風が吹いてきた場合は、風上に雷雲がある。
- 髪の毛が逆立つ感じは、頭上に雷雲がある。

落雷発生！

安全確保

命を守る (具体的対応)

【近くの教職員】

- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりした場合は速やかに屋内に避難させる。
(雷鳴が遠くても雷雲はすぐに近づいてくる。また、雨が降ってなくても雷雲はある。)
- 校庭やプールでの活動等、近くに高いものがない場所での活動の場合は特に注意し、速やかに活動を中止し、屋内に避難させる。

【生徒】

- 教職員の指示に従い、速やかに屋内に避難する。

<登下校時>

- 雷の活動は短時間におさまることが多いので、無理に帰宅せず、屋内へ避難する。
- 自転車に乗っていたら、すぐに降りて安全な場所に避難する。

【避難場所に関する留意点】

- 建物の中、自動車、バス、列車の中等への素早い避難が求められる。
- 軒先や外壁は、雷の通り道になること等に注意する。
- 雷は高い場所に落ちやすい。立ち木に落ちると被害を受けるので、立ち木から離れた所に避難する。
- 近くに避難する場所がない場合は、しゃがみ込む等できるだけ姿勢を低くする。

【安全な空間に避難できない場合の対応】

- 近くに安全な空間がない場合は、電柱・煙突・鉄塔・建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れた所(保護範囲)に避難する。
- 高い木の近くは危険であるため、最低でも木の全ての幹・枝・葉から2m以上離れる。姿勢を低くして持ち物は身体より高く突き出さないようにする。
- 雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動する。

雷が止む

【近くの教職員】

- 雷鳴が止んでから20分程度は落雷の危険があることから安全な場所での待機を指示する。
- 一つの雷雲が去っても、次の雷雲が近づく場合もあるので、新しい雷雲の接近に常に注意する。
- その後は、気象情報等で安全を確認の上、活動を再開するかどうか判断する。

(事後対応) 立て直す

【生徒】

- 教職員の指示に従い、安全な場所で落ち着いて待機する。

【登下校時】

- 雷鳴が止んでから20分程度は落雷の危険があることから、安全な場所で待機する。
- 一つの雷雲が去っても、次の雷雲が近づくことを想定し、新しい雷雲の接近に常に注意する。

2 竜巻

備え (情報収集)

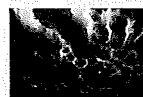
- テレビやラジオ、インターネット等で竜巻注意報の気象情報を入手する。
- 積乱雲は、急に発達することがあるため、屋外での活動前だけでなく、活動中も随時空の様子に注意し、(レーダー・ナウキャスト等で) 気象情報を入手して、最新の状況把握に努める。
- 屋外で活動する際は、朝から天気予報に注意する。特に『大気の状態が不安定』『急な雨に注意』『雷を伴う』『竜巻などの激しい突風』といったキーワードに注目する。
- 竜巻注意情報は、有効期間を発表から1時間としているが、注意すべき状況が続く場合には、再度発表されるので注意する。

【竜巻の予兆ポイント】

1. 比較的遠く(水平距離で数10km)で分かる前兆
「雷鳴が聞こえる」「かなとこ雲が広がってくる」
「乳房雲が雲底に見えた」
2. 竜巻が近い前兆
「降雹」「落雷」「真っ暗になる」
「冷たい風を感じる」「においを感じる」
「アーククラウドが見える」「壁雲が見える」



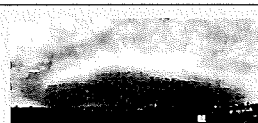
↑かなとこ雲



↑乳房雲



↑壁雲



↑アーククラウド

3. 竜巻が目の前に迫ったサイン

「地上の渦が見える」「耳鳴りがする」「ゴーという音がする」

※アーククラウドとは：ガスフロント上に形成されるアーチ上の積雲。

竜巻注意情報の発表

竜巻等突風については、発生予測が困難であり、移動速度も速いため、気づいてから避難行動をとるまでの時間的余裕のない状況が想定される。

<初期対応>

【近くの教職員】

- 気象情報を随時確認。生徒の安全確保について速やかに検討する。教職員の体制整備を実施する。
- 転倒や移動のおそれがあるものを固定する。
- 風圧によるドアの開閉や窓ガラスの飛散によるケガの防止等を図る。

【教職員の対応】

【校 内】

- 屋外にいる場合、空の様子に注意し、早めに校舎内に避難させる。
- 屋内にいる場合も、空の様子に注意し、より頑丈な建物、また建物の最下階への移動を検討する。
- 生徒に対し、適切な安全確保について指導する。

【校 外】

- 空の様子に注意し、近くの頑丈な建物に、早めに避難させる。

【登下校時】

- 登校前においては、緊急連絡網等を用い、できる限り家庭での待機を呼びかける。
- 下校前においては、原則学校待機とする。

【生徒の対応】

【校 内】

- 教職員の指示に従い、屋外にいる場合は早期の避難、屋内にいる場合は避難場所の確認等、適切な安全確保に努める。

【校 外】

- 教職員の指示に従い、早めに避難する。

【登下校時】

- 自分自身で空の様子に注意し、近くの頑丈な建物の中に早めに避難する。

命を守る (具体的対応)

竜巻等突風の接近

漏斗（ろうと）状の雲、ジェット機のような轟音、
耳に異常を感じるほどの気圧の変化

命を守る
(具体的対応)

【教職員の対応】

【校 内】

- 屋外にいる時は、校舎など頑丈な建物に避難させる。
物置やプレハブ（仮設建築物）などには避難させない。
- 屋内にいるときは、生徒を教室に集め、教室の窓、カーテンを閉め、窓からできるだけ離れさせ、身の回りの物で頭と首を守らせる。（机を壁に寄せて固めシェルターをつくり、机の下に潜る。）
- 可能があれば、より頑丈な建物、または建物に最下階に移動させる。できれば窓のない部屋の壁に近い所で避難姿勢をとらせる。

【校 外】

- 近くの頑丈な建物に直ちに避難させる。
- 物置やプレハブ（仮設建築物）等には避難させない。

【登下校時】

- 登校前においては、緊急連絡網等を用い、できる限り家庭での待機を呼びかける。
- 生徒が在校中においては、下校時刻であっても、校舎内に避難させ、天候が回復するまで待機させる。

【生徒の対応】

【校 内】

- 教職員の指示に従い、避難するとともに、適切な安全確保に努める。

【校 外】

- 教職員の指示に従い、直ちに避難する。

【登下校時】

- 竜巻を見続けることなく、直ちに近くの頑丈な建物に避難する。
- 頑丈な建物がない場合は、近くのくぼみに身を伏せ、頭と首を守る。
- 車庫や物置、プレハブ（仮設建築物）等を避難場所にしない。
- 橋や陸橋の下に行かない。
- 飛来物に注意する。

立て直す
(事後対応)

竜巻が止む

【近くの教職員】

- 竜巻が止んでも安全な場所での待機を指示する。
- その後は、気象情報等で安全を確認の上、活動を再開するかどうか判断する。

【生徒】

- 教職員の指示に従い、安全な場所で落ち着いて待機する。

急に暗くなる

巨大な積乱雲が日射を遮り、異様な雲底により夜のよう

うに暗くなることもあります

雷(ひょう)が降ってくる

竜巻(上昇流)の隣では、雷を伴った強い下降気流(ダウンバースト)が生じます

特別な雲：アーククラウド

ガストフロント上に形成されるアーチ状の積雲です(第2回コラムの写真2、写真3参照)

特別な雲：乳房雲

他の雲にも付随しますが、巨大積乱雲にしばしば見られます



雷鳴が聞こえる

スーパーセルでは落雷も集中します。雷鳴、雷光は避難のサインです

冷たい風を感じる

急激に気温が下がるのは、ガストフロント通過のサインです

麓(くさむら)や土の匂いがする

ガストフロント通過直前に、草や土、アスファルトなどの“むわっ”とした独特の匂いと“雨の匂い”を感じることがあります

耳鳴りがする

巨大竜巻の内部は数10hPaも気圧が降下します。そのために、竜巻近傍では耳鳴りがしたり、トイの逆流などが生じます

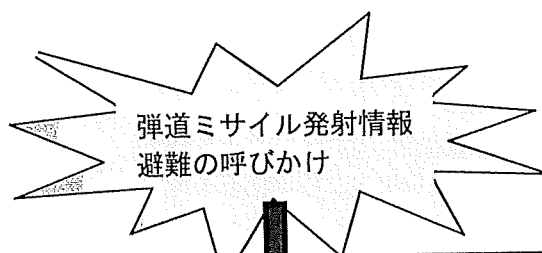
【図1】 竜巻の前兆ポイント

©小林文明

3 弾道ミサイル発射

(1) Jアラートによる情報伝達と学校における基本的な避難行動の流れ

ミサイル発射。
ミサイル発射。
〇〇から、ミサイルが発射された模様です。建物の中又は地下に避難して下さい。



行動の基本
「姿勢を低く、
頭部を守る」

直ちに避難。
直ちに避難。
直ちに建物の中、又は地下に避難してください。
ミサイルが落下する可能性があります。
直ちに避難して下さい。

避難行動

【屋外にいる場合】

- 近くの建物の中や地下に避難し、床に伏せて頭部を守る
- 近くに避難できる建物がない場合は物陰に身を隠すか地面に伏せて頭部を守る

【屋内にいる場合】

- できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋に移動する
- 床に伏せて頭部を守る

日本に落下する可能性がある

日本の上空を通過

日本の領海外の海域に落下

直ちに避難の呼びかけ

直ちに避難行動をとる

落下場所等についての情報

追加情報があるまで引き続き
屋内避難を続ける

追加情報

ミサイル通過情報

落下場所等の情報

屋内避難は解除

○不審なものを発見した場合には、決して近寄らず
直ちに警察、消防や海上保安庁に連絡する。

【2】様々な場面における避難行動等の留意点

◇学校にいる場合（校舎外の対応例）

- ・近くの建物の中に避難することが難しい場合は、校庭の中心ではなく、物陰に身を隠すかその場で地面に伏せて頭部を守る。

◇校外活動中の場合（野外活動の対応例）

- ・引率者は、携帯電話等の情報ツールを携行することはもとより、情報収集の手段を確保しておくことや、事案が発生した場合の避難を念頭においた下見を行う等、場所に応じた対応。

◇登下校中の場合

- ・登下校中は、地震発生時と同様に、その時入手した情報に基づき生徒自らの判断で冷静行動できるよう、事前指導をしておく。

4 学校への犯罪予告・テロ

学校への爆破予告などの犯罪予告があった場合、警察等の関係機関と連携した対策が求められます。警察の指示の下、教育委員会と連携し事案に応じて適切に対処することが必要。

<例：爆破予告>

- ・生徒を不安にさせない配慮をしつつ、最悪の状況を想定し、安全を第一とした対応が求められる。当該情報に最初に触れた教職員は管理職へ報告し、速やかに校内で情報共有するとともに、学校から速やかに教育委員会や警察へ通報し、指示や情報を得る事が第一。

<例：テロ>

- ・病院やホテル・コンサート会場・交通施設等、多くの人が集まる民間施設を標的としたテロが発生し、多くの尊い命が犠牲となった。こうしたソフトターゲットを標的としたテロが日本でも発生する可能性が否定できないことから、学校が標的となり得る点を踏まえ、警察等の関係機関と連携した対策が求められる。

<その他>

- ※自治体の国民保護計画に沿って、発生する事案の状況に応じてあらかじめ必要な情報を共有し、いざというときに生徒の安全確保ができるように備えることが重要である。
- ※学校においては、不審なものがないか等、以前と異なる状況を早期に発見できるよう、日頃から学校環境を整備し、特に薬品などの備品管理を徹底するとともに、安全点検等を実施することも大切である。

5 インターネット上の犯罪被害

近年、生徒を脅かす犯罪被害として、インターネットを介した事案が多く発生しており、特にSNSに起因する被害は多様化・深刻化している。こうした被害を発見した場合は、早急な対応が必要になるため、すぐに警察、法務局・地方法務局に相談することが大切である。

学校においては、犯罪被害の未然防止及び問題の早期発見・被害防止のために、最新事例の把握や情報モラル教育の充実に努めるとともに、被害があった場合は、警察、法務局・地方法務局にすぐに相談できるよう、日頃から、体制の構築をしておくことが必要である。

また、保護者に対しては、生徒がトラブルに巻き込まれないようするために、携帯電話等の「フィルタリングサービス」の必要性について指導をすることなどを通して、保護者と生徒が一緒に考える」機会を作るように案内することも大切である。

<被害事例>

○自画撮り画像の送信

- ・女子中学生は、コミュニティサイトで知り合った男性モデルになりすました男に、自分の裸の画像を送信させられた。

○危険な出会い

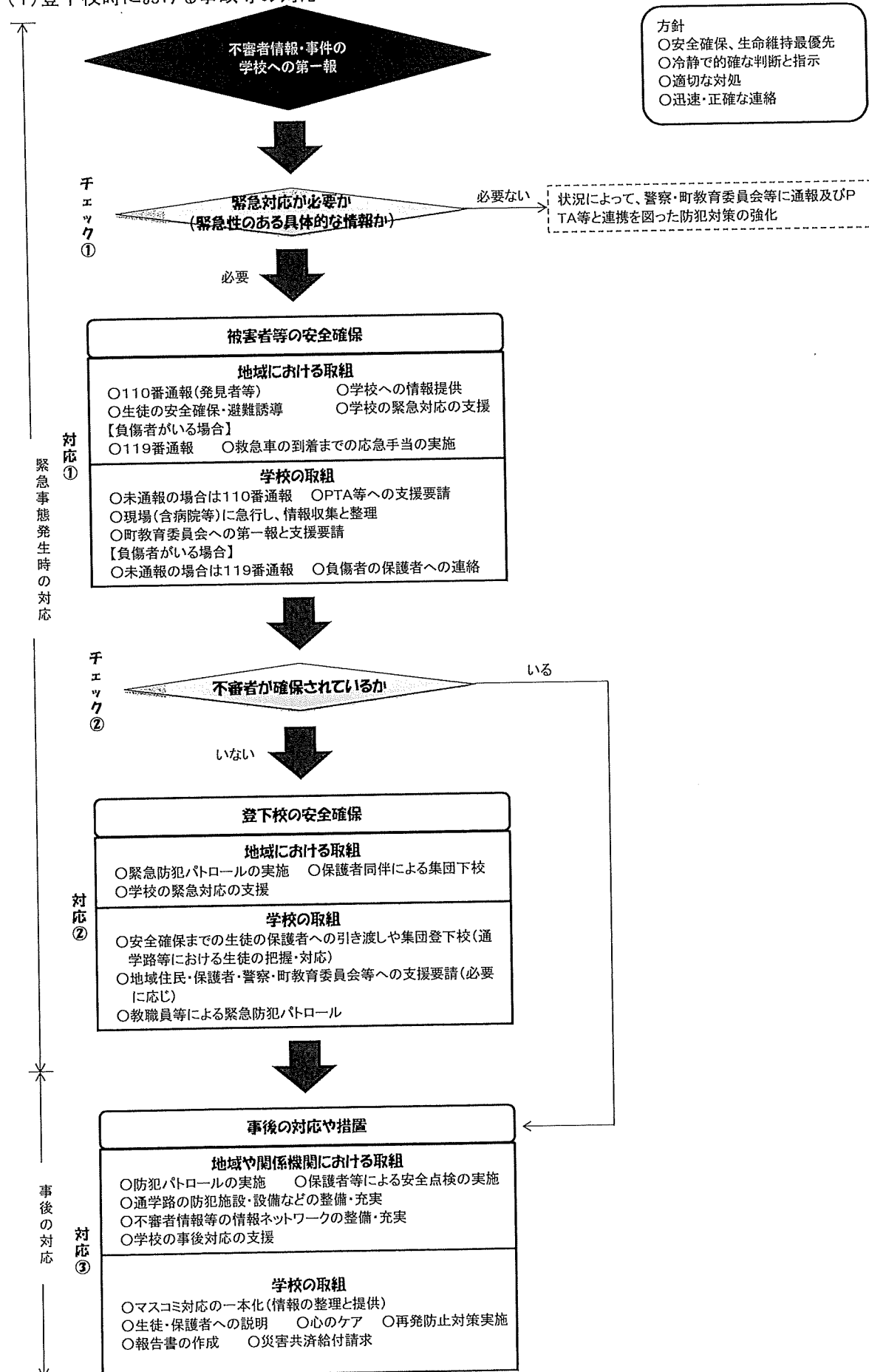
- ・親とケンカした女子中学生は、宿泊場所の提供を求めコミュニティサイトに書き込んだところ、車で迎えに来た男から家出をするようにそそのかされ、そのまま男の家に連れて行かれた。
- ・男子中学生は、コミュニティサイトで知り合った男と実際に会った結果、わいせつな行為をされ、その様子をデジタルカメラで撮影された。その後、男から「学校にばらす」等と脅された。

<加害者にもならない>

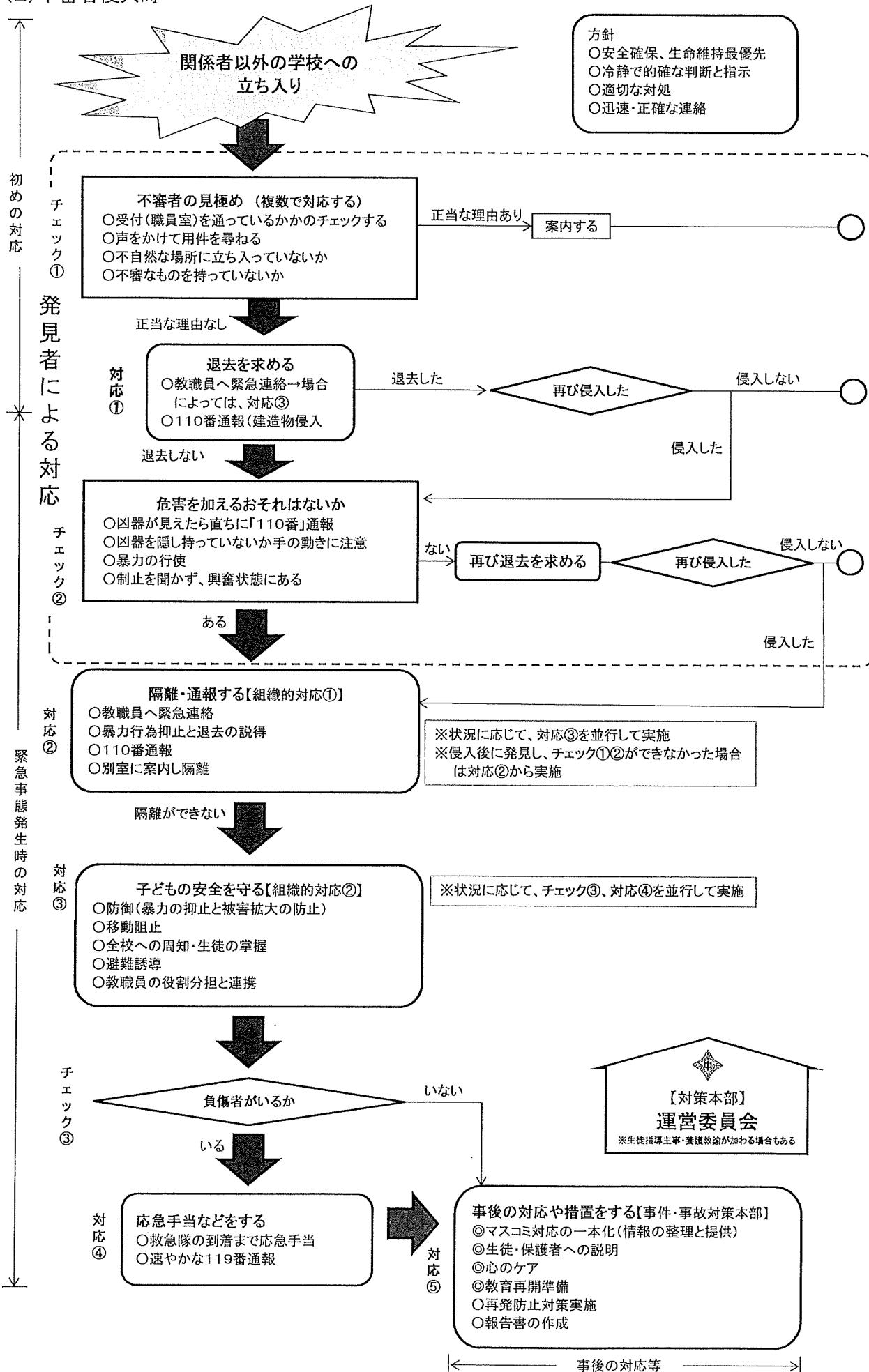
- 他者の権利を尊重し、情報社会での自らの行動に責任をもち、適切に判断・行動できる力を身につけさせることも大切である。

3 危機管理体制

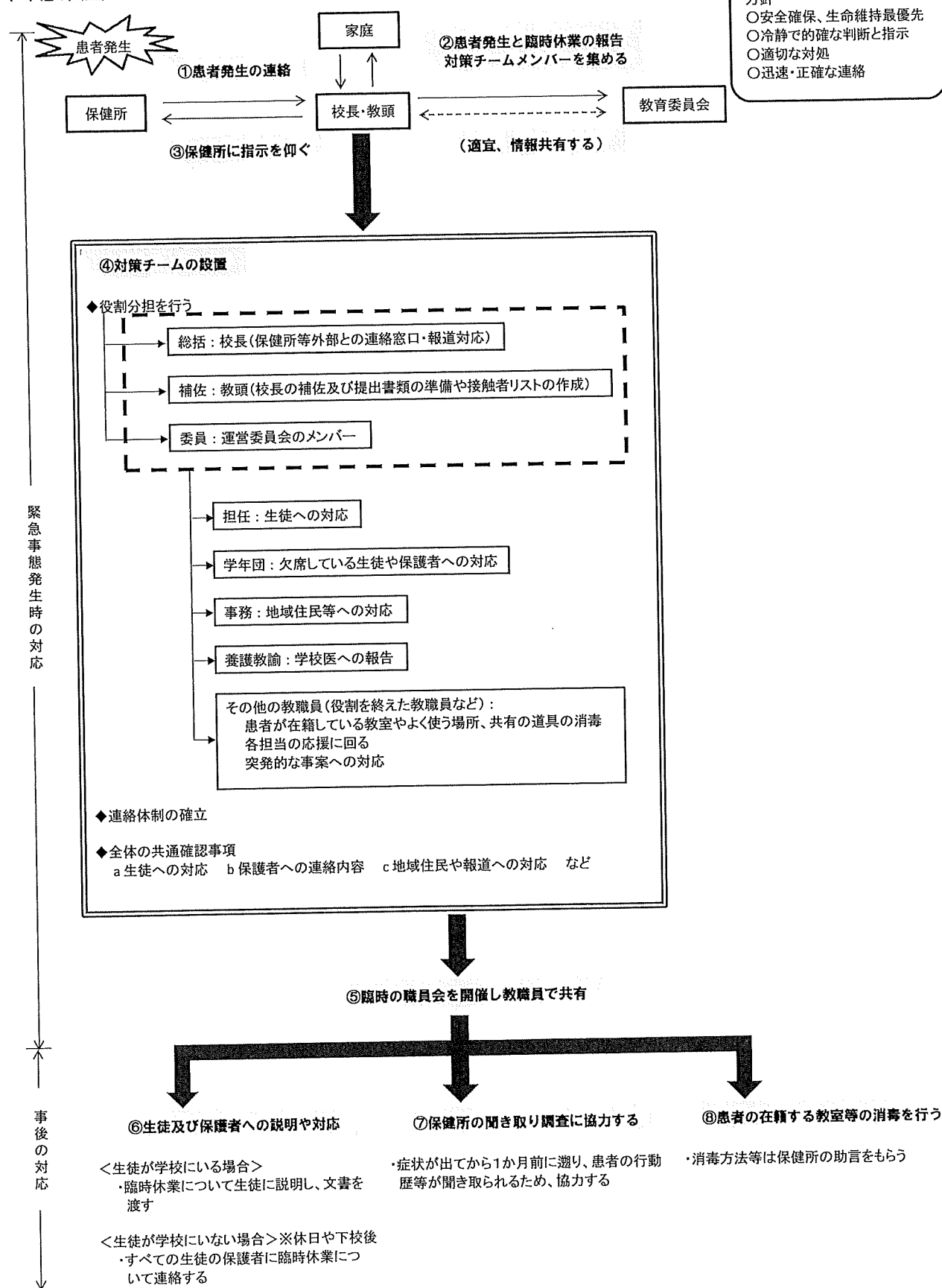
(1) 登下校時における事故等の対応



(2)不審者侵入時



(3) 感染症発生時



奈良半利町立奈良半利中学校
 自他を尊重する自律した学習者として、未来をたくましく生きる生徒の育成
 『心身と手に健康で、心豊かに生きる生徒の育成』
 「自己の健康課題を明らかにし、基本的な生活習慣の確立を図ることができ

32

(2) 保健室経営

1. 学校教育目標

自他を尊重する自律した学習者として、未来をたくましく生きる生徒の育成

2. 学校保健目標

心身ともに健康な生徒を育成するため、年間の保健安全行事が系統的に実施できるよう、体制や環境を整える。生徒が日々健康で安全な生活を営むことができるよう、知識と実践力の定着を図る。

3. 保健室経営方針

生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解に努め、教職員や保護者と連携を取りながら健康課題を明らかにしていく。そして、生徒自らが健康課題解決に向けて実践できるよう、校内だけでなく地域や関係諸機関、専門家の支援や協力を得ながら、健康センター的機能を持った保健室として健康教育を推進していきたい。

(1) 重点目標

自己の健康課題を明らかにし、基本的な生活習慣の確立を図ることができるよう支援する。

- ・健康相談活動に積極的に取り組み、生徒一人ひとりの健康に対するニーズを把握するとともに関係作りに努める。
- ・生徒会専門委員会活動を活発化し、健康に関する情報の共有を図る。
- ・地域や専門家の支援を得て連携しながら健康教育を推進する。

(2) 特別支援教育の視点から保健室として心掛けていること

- ・一斉指導の場面でも個別の言葉がけに努め、視覚に訴える資料を提示して、理解を深められるようにする。
- ・集中して健康診断が受けられるような環境整備を行い、健康診断を積極的に受診できるような個別の言葉がけを大切にする。また、日頃から積極的に生徒と関わり、困った時に相談してもらえる雰囲気・関係作りに努める。
- ・特に行事など特別な場面での困り感がないかよく観察し、教職員間の連携をしながら場にあった支援を心がける。

4. 保健室経営計画

(1) 保健管理

- ・全校生徒の発育測定
- ・病院受診や経過観察の必要な生徒の個別保健管理
- ・アレルギー疾患および食物アレルギーを持つ生徒についての調査の実施
- ・食物アレルギー罹患生徒の健康管理の徹底（学校生活管理指導表を活用）

(2) 健康相談活動

- ・ 計画的に相談活動を行い、健康管理に対する関心や意欲を高める。
- ・ 支援の必要な生徒への定期的な言葉がけと信頼関係作りに努める。
- ・ 生徒の思いやニーズを教職員間で共有し、生徒理解や支援に結びつける。
- ・ SC 等の外部機関と連携した学校教育相談活動の活性化

(3) 保健指導・保健教育

- ・ 基本的な生活習慣の確立に向けた実践（生活調査）
- ・ 専門家を招いての保健指導の取組（非行防止教室、交通安全教室、心肺蘇生法、薬物乱用防止教室、LINE 教室、性教育等）

(4) 環境整備委員会活動

- ・ 常時活動（給食時の衛生管理、フッ素洗口の準備・片付け、掃除道具の点検・整備）
- ・ 健康調査、身近な健康問題についての啓発活動

(5) 組織活動

①校内での連携を密にする。(SC、SSW、学年会、管理職)

- ・ SC や SSW による保護者との相談活動の連絡・調整

②地域との連携をはかる。(中芸広域連合・奈半利小など)

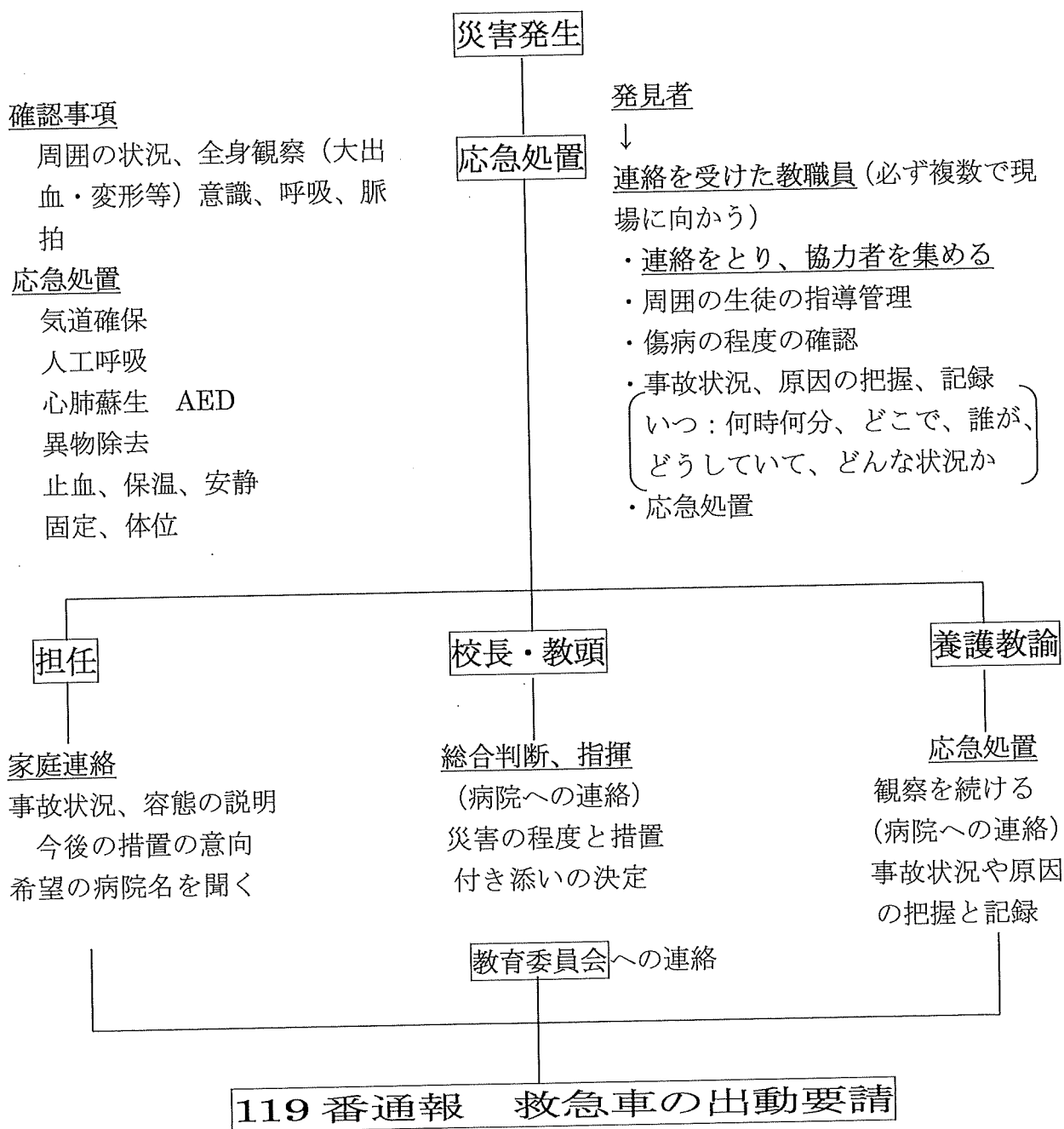
③家庭との連携を大切にする。

- ・ 定期的に保健だよりを発行する。
- ・ 必要に応じて家庭訪問を実施する。

(3) 校内救急体制

1. 緊急の場合

呼吸停止、心臓停止、呼吸困難、意識障害、胸痛や激しい腹痛の訴え、大出血、ショック症状、頭部外傷、頭部打撲、頸部・脊椎損傷の疑い、手足の麻痺、痙攣の持続、内臓破裂、溺水、広範囲の火傷、開放性の骨折など、生命が危険、またはその疑いがあると判断された場合には管理職の指示を受け、速やかに救急車の出動を要請する。(場合によっては AED の手配)



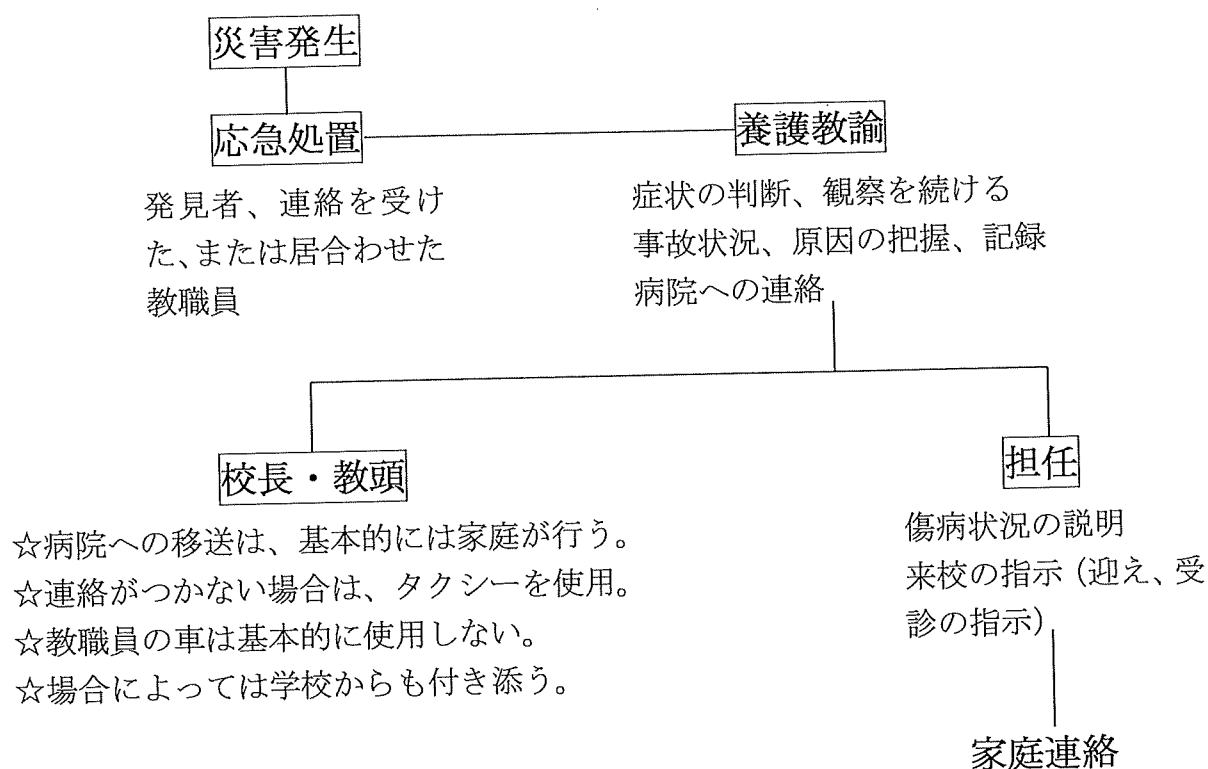
※救急車への連絡の仕方は次のページ

(1) 救急車への連絡の仕方

- ①局番なしの 119 番をかける。
 - ②救急です。
 - ③奈半利中学校です。
 - ④住所は奈半利町乙 1315-3 です。(または災害発生場所) 電話は 0887-38-4909 です。
 - ⑤生徒氏名、学年、性別、人数、傷病の状況(意識、呼吸、大出血など)と、どうしていつけがをしたかを簡潔に伝える。
 - ⑥電話をしている本人の名前と電話番号を伝える。(災害発生場所から携帯で直接状況を見ながら連絡をとるほうが望ましい)
 - ⑦待機している場所の説明をする。(目印になるものなど)
「サイレンは、他の生徒が動揺するので、早めに止めてください」
 - ⑧救急車のサイレンが聞こえたら、一人、現場への誘導に当たる。
 - ⑨救急車到着までの観察事項(第一発見者とその時の状況も)、処置事項、容態の変化を記録し、救急隊員に引き継ぐ。
 - ⑩持病があれば病名、かかりつけの病院(保護者の意向があれば)を伝える。
 - ⑪119 受付員から応急処置の口頭指導があった場合には、その指示内容の実施とその旨を伝える。
 - ⑫救急車への同乗(応急処置をした者、あるいは養護教諭、間に合えば保護者)
 - ⑬管理職(どちらか)は車で救急車の後を追う。
 - ⑭担任は保護者への連絡、他の生徒への事後指導(他の教職員に指示し任せる)の後、病院に向かう。
- ※災害時の対応後、速やかに臨時職員会を持ち(または連絡網で)事実の周知徹底を図る。
- ※大きな事故災害の場合の、外部からの窓口は校長を通す。

2. 生命の危険はないが、速やかに医療の必要が認められる場合

骨折、切創、歯牙破折および脱臼、高熱、症状の重い腹痛や頭痛など



3. 発熱、頭痛、腹痛などで授業を受けることが困難な場合

- ・回復できる見込みがあれば、1時間程度を目安に休養させ、経過観察をする。
- ・回復しない場合は、家庭連絡をして迎えに来てもらう。
- ・内服薬は与えない（アレルギー、副作用の危険性、診察の妨げになる可能性）
- ・一人で下校させた場合は、自宅に到着したことを確認する。
- ・病院で診察を受ける場合は病院に連絡をしておく。（状況に応じて）

4. その他

(1) 応急処置を行うに当たって

- ①傷病者の容態をていねいに観察し、また聴取し記録
- ②重傷（重症）度や緊急度の判断（できるだけ複数で）
- ③管理職への報告
- ④必要に応じて救急車の出動要請や学校医への連絡・相談
- ⑤全校体制での適切な対応等に配慮

(2) 重傷（重症）度や緊急度を判断するポイント

- ①傷病者本人や周囲の生徒等から状況を聴き取り記録する。
 - ・ 傷病発生の時刻
 - ・ 事故発生場所
 - ・ 負傷部位
 - ・ 傷病者の様子
 - ・ 事故の原因等の情報（5W1H）
- ②傷病者の様子を観察し記録する。
 - ・ 体位・姿勢
 - ・ 顔つき
 - ・ 顔色
 - ・ 皮膚の色
 - ・ 精神状態
 - ・ 四肢の動き、歩行の様子
 - ・ 瞳孔
- ③できれば触診、聴診、打診やバイタルサイン（脈拍・呼吸・体温・血圧・意識・反射等）等
- ④出血がある場合は、感染予防対策を行ったうえで止血する。
出血がない場合も、出血していないからといって軽症と判断しない。

(3) 応急処置後の対応の判断基準

- ①直ちに救急車の出動要請・心肺蘇生・AEDの使用が必要か。
- ②学校が医療機関へ搬送する必要があるか。
- ③早退させ、保護者へ委ねる必要があるか。
- ④保健室での経過観察が必要か。
- ⑤教室において、制限を加えつつ、観察する必要があるか。
- ⑥通常通り、授業を受けさせてよいか。

(4) 熱中症の応急処置

✓熱中症を疑う症状がある

めまい・失神・筋肉痛・筋肉の硬直・大量の発汗・頭痛・不快感・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・意識障害・けいれん・手足の運動障害・高体温

はい

✓呼びかけに応えますか

はい

涼しい場所へ移動し、衣服をゆるめて、体をひやす

✓水分を自分でとることができますか

はい

水分・塩分を補給する



✓症状が良くなりましたか

はい

そのまま安静にして、十分に休息をとり、回復したら帰宅する

119番通報

- ①救急車をお願いします
- ②奈半利中学校の〇〇です
- ③住所は奈半利町乙 1315-3 です
- ④いつ(何分前・何時ごろ等)

- ⑤どこで
- ⑥誰が(氏名・学年・歳・性)の状態(症状等)
- ⑦来るまでにすることを聞く

いいえ

管理職、家庭へ連絡

救急車を呼ぶ



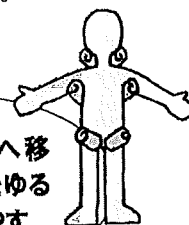
救急車が到着するまでの間に応急処置を始めましょう。呼びかけへの反応が悪い場合には、無理に水を飲ませてはいけません。飲ませる場合は少量ずつ。

いいえ

いいえ

管理職、家庭へ連絡

涼しい場所へ移動し、衣服をゆるめて体を冷やす



氷のう等があれば、首、わきの下、太ももの付け根を集中的に冷やしましょう。扇風機があれば風を送り、涼しい部屋に可能であれば移動させます。

医療機関へ



本人が倒れた時の状況を知っている人が付き添って、発症時の状態を伝えましょう。

? 熱中症を疑ったときに何をすべきか?

①涼しい環境への避難

風通しのよい日陰や、できればクーラーが効いている室内等に避難させましょう。

②脱衣と冷却

衣服をゆるめて、体から熱の放散を助けます。冷やしたペットボトルや氷のうなどを体の太い血管が通っている部位(首、わき、太ももの付け根)にあて、全身を冷やします。

③水分・塩分の補給

応答や意識がはっきりしているなら冷やした水分を与えます。「呼びかけや刺激に対する反応がおいしい」「答えがない」時には誤飲する可能性があるため、病院での点滴が必要です。

